

第 4 回(仮称)江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会 議事録

出席者

大江山地区：和田和之・熊倉宗衛

亀田地区：田辺豊平・熊谷喜作・佐藤裕吉・森田一郎・上山寛

曾野木地区：志賀恒一・小林洋一

横越地区：阿部兵一・仲村正

両川地区：青木彬樹・五十嵐和也

公募による委員：保科桂子

事務局：太田英次・枝並素子・新田見哲也

1. 亀田郷土資料館の展示・収蔵物の説明(新田見)

- ・館内の見学
- ・パワーポイントによる説明

2. 江南区地域課長あいさつ

「本日は第 4 回(仮称)江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会にお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。前回 9 月の懇談会では、今建設されている資料館につきまして見ていただきました。本日は現在の亀田郷土資料館の展示品、それと収蔵物をみなさんから見ていただきました。そして今ほどは新田見館長からこれまで研究されてきた資料について情報提供をみなさんにさせていただきました。さて、今 10 月になりましたが、来年 平成 24 年の 10 月に新しい資料館はオープンを予定しております。1 年といても決して長いものではございません。そういった意味におきまして、みなさんから懇談会の意見を色々お聞きしまして、新しい資料館の機動性ある展示室をいかに有効に活用して、どういう風に展示していくかというイメージをどんどん作っていきたいと思います。今日の議題が資料館開館準備についてとなっておりますが、ぜひみなさんから意見を出していただきまして、進めていきたいと思っております。簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願ひします。(太田)」

3. 議題

1.(仮称)江南区郷土資料館開館準備について

「では、3 の議題の方へ移りたいと思ひます。(枝並)」

「では、早速始めたいと思ひますが、前回の話し合いにつきましてはみなさまの所に郵送されて届いていると思ひますので、そんなことを踏まえながら今日は最初にこのどんなものがあるのかということで、見ていただきました。それで今は新田見館長が今ある資料の

中でどういう事が考えられるかという事について提示してもらいました。館長がおっしゃられていましたが、まだまだこの各地区資料が眠っているのではないかとということで、そんなことも踏まえながら、今日これから議題(仮称)江南区郷土資料館開館準備についてということで、お話ししたいと思います。最初に館長さんから説明をいただいて、それからみなさんから意見を聞きたいと思います。では、館長さんお願いいたします。(森田)」

「はいでは今日お配りしました、

(仮称)江南区郷土資料館開館準備について。

1、郷土資料館展示物などの準備について

既存の亀田郷土資料館には、かなりのボリュームの情報や資料があります。

しかし、区内の他の地域の情報や資料は、あまり多くはありません。

新設する館では、区内の情報・資料等の来館者、利用者への提供が必須です。

そこで、開館までの今後の一か年に、それらの獲得が必要です。

ここで言う情報や資料とは、次の二つの資料です。

- (1) 展示のための情報源となる資料
- (2) 具体的に展示物として展示する資料

2、これらを獲得する方法

- (1) 「区役所だより、こうなん」で広報して情報や資料の提供などを呼び掛ける
- (2) 懇談会委員の方々より、具体的な働きかけや情報をいただく

3、「区役所だより こうなん」での広報の内容

「区役所だより こうなん」では、次のような内容を盛り込んだらと考えます。

- (1) 24年10月に開館の「江南区文化会館」に「郷土資料館」が開館すること
- (2) 「郷土資料館」は、地域の資料収集、保存、整理、調査、研究と展示、広報、教育支援等を行う施設であることをわかってもらう
- (3) 地域のそのような情報や資料は、地域の方々より提供していただく必要があること
- (4) 現在、情報や資料は十分だとはいえないことを伝える
- (5) 「郷土資料館」を地域全体の力によって創り上げ、地域の今後についてを区民みんなが、共に考えてほしいと提案する
- (6) 資料などは、寄贈ばかりでなく、寄託していただくという方法もあること

4、懇談会委員の方々よりの働きかけや情報獲得の方法

「区役所だより こうなん」で、懇談会委員の方々地域で働きかけを行うことについてを広報

- (1) 懇談会委員の名を「区役所だより こうなん」で広報する

- (2) 懇談会委員への協力を依頼する
- (3) 懇談会委員の方々からは、地域に顕在・潜在している情報の発掘に取り組んでいただく
- (4) 地域の方から懇談会委員へ方への一報があり次第、事務局に連絡する

5、情報が得られた際の対応

地域より情報があつた時には、

- (1) その地域から出ておいでの懇談会委員の方に初発の対応をお願いする
- (2) 情報発信をされた地域の方より得られた内容は、事務局に連絡いただく
- (3) 事務局では、その内容について当該の委員の方と扱い方について協議する
- (4) 取得した情報は、内容とその扱い方などについて、必ず次の懇談会で話題にする

6、獲得できた情報の生かし方、管理の仕方

- (1) 5の(4)で話題にした結果どのように展示や収納にするか懇談会で協議する
- (2) 設計者や資料作成者などとの交渉は、地域課が担当する
- (3) 取得した情報を具体的に展示などに生かすのは、実働スタッフに依頼する

7、実働スタッフについて

H23.7.8の「懇談会全体計画(案)」で了承された内容は、次のようである

- (1) 実働スタッフに誰がなるか
 - ア 懇談会委員
 - イ 懇談会委員の推薦によるスタッフ
 - ウ 一般公募中のサポーター
 - エ 区役所職員
- (2) 他の方法で人材を求める
 - ア 「区役所だより こうなん」で、実働スタッフを公募する
 - イ 公募と並行して、人材発掘を懇談会委員の方々にも依頼する
- (3) 実働スタッフの組織作りは、今年中に完了させる

以上でございます。(新田見)

「はい、ありがとうございました。来年の10月までもう1年しかありませんので、その間にとにかく立ち上げようというわけですが、これから本格的に我々も一生懸命頑張っていかなきゃいけないのだなと思いますが、まず区役所だよりによって広報をはかろうというのが1つあがってしまっていて、それから広報した結果情報が入ってくる。その時には各地区の情報に関しては懇談会のみなさんが主になっていただいて、接触などをしていただいて、そして今度は館の方で話し合つて具体的に働きかけていくという話だったかと思ひ

ますが、全体的にこの進め方についていくつか案が出されましたが、何かご意見ございましたら。なんでも結構でございます。(森田)」

「先ほどのお話にもありましたが、情報をぜひ集中して教えてほしい。先ほど資料館の展示品などを見学させていただいて、亀田郷は曾野木も両川も大江山もいわゆる水郷地帯の農業をしてきたわけなので、ほとんどの農作業の機械あるいは生活用品のほとんど全てが曾野木では同じものを使いながら作業をやってきたわけで。そしてやっぱり家を建て替えたりなんかすると、古い物は捨てられていて、そういうことがありまして、これから新たに昔の生活用品あるいは農業の道具その他についてはちょっと、ここに展示されている物で足りているという風に感じいたします。以上です。(志賀)」

「はい、ありがとうございました。今のお話は江南区全体的に農業関係とか生活関係だったりを見ていったときに、ここに集められている物でもいいんじゃないかというお話だったかと思いますが、他にございませんでしょうか。(森田)」

「先ほどこの展示物を見させていただきまして、綺麗に整頓されていまして安心いたしました。農具類はあるんですがね、横越は阿賀野川がありますのでね漁具類が不足しているかなとは思っておりますので。アミとかありまして、今は亀田土地改良区の方に入っていると思いますので、その辺も見ながら展示してなくて収蔵してあるのがあるかもしれませんので、土地改良との話し合いの中で、その辺をこれから今集めるのは大変ですのでお借りするなりなんかして、展示した方がいいかなと思っております。(阿部)」

「ありがとうございました。農業関係については大体いいんだけど、阿賀野川の漁業に関する道具がちょっと欠けているのではないかということで、貴重なご意見ありがとうございます。そういった資料は土地改良の方にいってるそうなのでそこでの活用も必要かなという気がいたします。その他なにかありませんか。(森田)」

「横越嶋の古い地図は一番最古のものが、割野の青木家にあります。これは前にもお話ししましたが、新しい郷土資料館が出来ましたらお借りできそう。それから市のことですが、亀田は三・九の市があるわけですが、両川地区は酒屋で二と七の市がだいぶ昔からのがあって、そういうのも調べたらなにかある。あと、もう1つは区役所だよりのことですが、これについては今日の説明にもありましたが、これは賛成です。(青木)」

「はい、ありがとうございました。最古の横越嶋の地図が借りられそうということで。ほかになにかありませんか。(森田)」

「私も広報については賛成で 1 回じゃなくて何回かやったほうがいいんじゃないかなと思います。それからですね江口の庄屋さんとのやりとりを本にしたものがある。(熊倉)」

「はい、貴重なご意見ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。(森田)」

「早通の佐々木邸、それから本町にある大倉邸など、旧家をもうちよっと当たってもらって、そういうものがあるかないかひとつ調査をしてもらいたいです。(佐藤)」

「はい、旧家にも当たってみてはどうかというお話でした。ほかにございませんでしょうか。(森田)」

「ちょっと青木さんにお尋ねしたいんですけども、両川の歴史のなかに検地帳ですとかがかなり書いてあるんですが、それは現物があるんでしょうか。本物はあるんでしょうか。(新田見)」

「あると思うが、どこにあるかはまだ把握していない。両川地区で検地をした方をあたってみます。(青木)」

「両川村のあゆみは昭和 30 年頃作られたんですね。イヨカワ先生がどこから調べたのか。その元となったものが文書なのか何なのか、もしだったら本人に聞いてみたほうが。(五十嵐)」

「両川村史の検地帳の分析は私がしたわけですが、その時分析した検地帳は全部お借りした所へお返ししたはずですが、私の記憶にあるその検地帳は割野の田中さんというお宅があって、そこが地主さんでございました。その家に検地帳が何冊かあって、そこからお借りをして私が分析した記憶があります。分析が終わった後は田中さんにお返ししましたので、その後どうなったかはわかりません。(田辺)」

「旧家というところが今みんななくなっているんですね。木村家も小野家なくなっている。そして新潟市に合併してしまったので。両川村がなくなってもうだいぶ経っているから。それもこれから調べてみたいですけど。(五十嵐)」

「田中様の分家に文書がいっぱいあったんです。その家が無くなって後を継ぐ人の家に行ったんだけど、その継いだ人がほとんど始末してしまった。(青木)」

「ありがとうございました。その他何かお気づきの点ございますでしょうか。(森田)」

「下の階の物を見ましたら、色々な種類ありましたが割と年代的には新しいものが多くて、お宮とかお寺とかそういう所へ行くと、凄く古い江戸時代とかの時の物があるんですね。だけど字とかが薄くなっていていらないとなる所もあって、あれは勿体ないと思っていた。ああいうのは何か綺麗にしたら見えるようになるのではないのですかね。江戸時代の終わりくらいのものが結構お宮やお寺にあると思いますので、見ていただいた方が残ると思うんですけども。(保科)」

「つい先だって円周寺の欄間をいただいたんです。裏面が絵で片面が俳句なんです。寛政年間の物です。6枚くらいいただきました。字が大変綺麗でして、保科さんがおっしゃる通りいいのが多いんですね。それは確かになんとか読めればなと思っています。それで将来的には2階のほんぼーと一緒になって俳句関係の展示を考えていますので、そこに出せればなと思っています。(新田見)」

「保科さんがおっしゃったように将来的にはそういったものも整理していかなければいけないなと思います。他にまたどこかを壊すという情報を聞きましたら教えていただきたいと思っています。その他何かございませんでしょうか。(森田)」

「私先回欠席しまして、前回の会議録を見ましたら森田さんのほうから両川の造船についてですね質問が載っていたんですが、今両川地区で造船をしておられる方はいません。ただ過去においては、私が知っている方で酒屋出身で船大工をしている方がいましたが、ほとんど土地改良が終わると農業用の船が中心だったので、処分したというのがほとんどで。ただわずかばかりその当時の道具がちょっと残っているというのが一軒あったんですけど、万が一必要な時借りるかもわからないから取っておいてくれとは言っております。農業用の船とかなんで大きな船は造ってないという事でした。(五十嵐)」

「ありがとうございました。今一軒ほどあるという事ですね。(森田)」

「この広報の関係なんですけど、地元のものですが何かお手伝い出来るのであれば、私共の広報誌にも、大江山ですけども資料提供の文章を載せることは可能です。これは年内に完了させるという事なんですけども、期間があまり無いと思いますのでその都度開館してから企画展示するような時に、資料提供なり資料の発見のために広報を一生懸命していくことも必要じゃないでしょうかね。(熊倉)」

「広報は何回もやっていく必要があると。ほかに何かありませんか。そうしましたら、広報をやっていくということについてはご異議ありませんでしょうかね。その他みなさん何

かありませんか。岩野さん何かお気づきの点がありましたら。(森田)」

「新田見館長からのお話で今日大体亀田が中心であるという風におっしゃってたんですけども、展示テーマの方は示されていてあとはこれに足し算引き算をしていって、空間の中に納めていくという作業にそのうち移っていくと思うんですけども、例えばテーマ的にはこれに触れなきゃいけないんだけど展示するものがないと、それは特に時代が昔になればなるほど多くなっていくわけなんですけども、逆にその物はあるんだけど今このテーマにあがっていないような物もあると思うので、そういった所をもう一度みて、例えば果樹栽培の話をもしするとなったら何か展示するものがあるのだろうか。みなとびあの方にも梨の写真とかはやっているんですけども、実際の梨を展示するわけにもいかないの。模型も造らずに写真でやっているんですけども、何か例えば包み紙ですとか昔のパンフレットですとかそういった形で掘り起こしていく際に、どういったものがあるところこの地域の特徴を示しているかなという風な目線でもう一度さらっていく作業をするといいかな。どうしても亀田郷という稲作の話がメインテーマになっちゃうんですけども、結構砂丘地の方だと割と野菜類ですとか果樹なんかを盛んにやっていた地域ですので、そういったところもあるとこの地域の特徴になるんじゃないかな。(岩野)」

「あとは養蚕があるんです。梨の袋はね余ったら、袋に蠟が塗ってあって焼いてしまうんです。取っておかないんです。横越で収集して土地改良に持っていった時も梨の袋は出てこなかった。(仲川)」

「今お話があったように果樹栽培と梨とあと養蚕ですね。ほかに。(森田)」

「この間、十日町の資料館に行った時、パネルや機織り機のところにマネキンなんかがいったりして立体的で凄く見やすかった。(佐藤)」

「流行が過ぎてしまうとみんな忘れてしまうんですけども、横越では藍の栽培をしていた。スイカなんかも出荷していた。藍屋さんが何軒かありました。(保科)」

「その他何かございませんでしょうか。これからは具体的な展示なんかを考えていかなくてもはいけませんので、またみなさまからご協力していかなければいけませんので、よろしくお願ひいたします。それでは今日はこれで終わりたいと思います。今日は本当にありがとうございました。(森田)」